

雨田邸



\*01

築年数:築半年  
構造:木造軸組工法  
敷地面積:160m<sup>2</sup>  
述べ床面積:115m<sup>2</sup>  
家族構成:ご夫婦+犬一匹  
建築費:2310万円

call:03-5456-5134 連建夫建築研究室  
address:東京都渋谷区桜丘町12-8  
渋谷コーポラス209  
<http://www.geocities.co.jp/Hollywood/8372>  
施工:北沢建設株式会社  
call:045-953-2674



自分スタイル 01

## ルーフデッキのある家 ルーフデッキにスタジオ、木工のできる土間 弊誌カメラマンが建てた「自分スタイルの家」

ここで紹介させていたくのは、弊誌スタイルハウスなどの撮影を行っている  
雨田カメラマンの家。なんでも、取材で住宅を撮っているうちに自分の家が欲し  
くなってきたのだと。そのプロセスはみなさんの参考になるはずですよ!

text/Soichi-KAGEYAMA(陰山惣一) photo/Tomoya-WATANABE(渡邊朋哉)



となりの緑地帯から撮影すると、玄関正面はこうしたスタイル。引き戸の玄関は造作。外壁は和風をイメージしてエンジ色のガルバリウム。

じ  
つは今、中古マンションを探し  
てるんです。リフォームして住  
もうかと思って……。どこかいいとこ  
ないですかなえ」弊誌カメラマンの雨  
田さんが、こう話していたのが今から  
4年前。それがつい先日「そういえば  
雨田さん建築家と家建てたらいいよ」  
という噂が……。ことの真相を雨田  
さんに尋ねると「いやあ、じつはそ  
うなんです。変わった家なんですけどね  
のこと。

聞くところによると、以前弊誌で建築家、連さんの建てたお宅を2回取材させていただいたことで、すっかり彼の建築に嵌ってしまったのだとか、「デザインが気に入ったことはもちろんですが、土地、建物合わせて350万円で家は建ちます」という話を聞いたのがきっかけですね」と雨田さん。連さんは家が近所だったということもあり、土地探しを含めた雨田さんの家造りを連さんが手伝ってくれるといふ話になつていつたのだそうです。

「最初は中古マンションを探していましたが、連さんが手伝ってくれるといふ話になつていつたのだそうです。

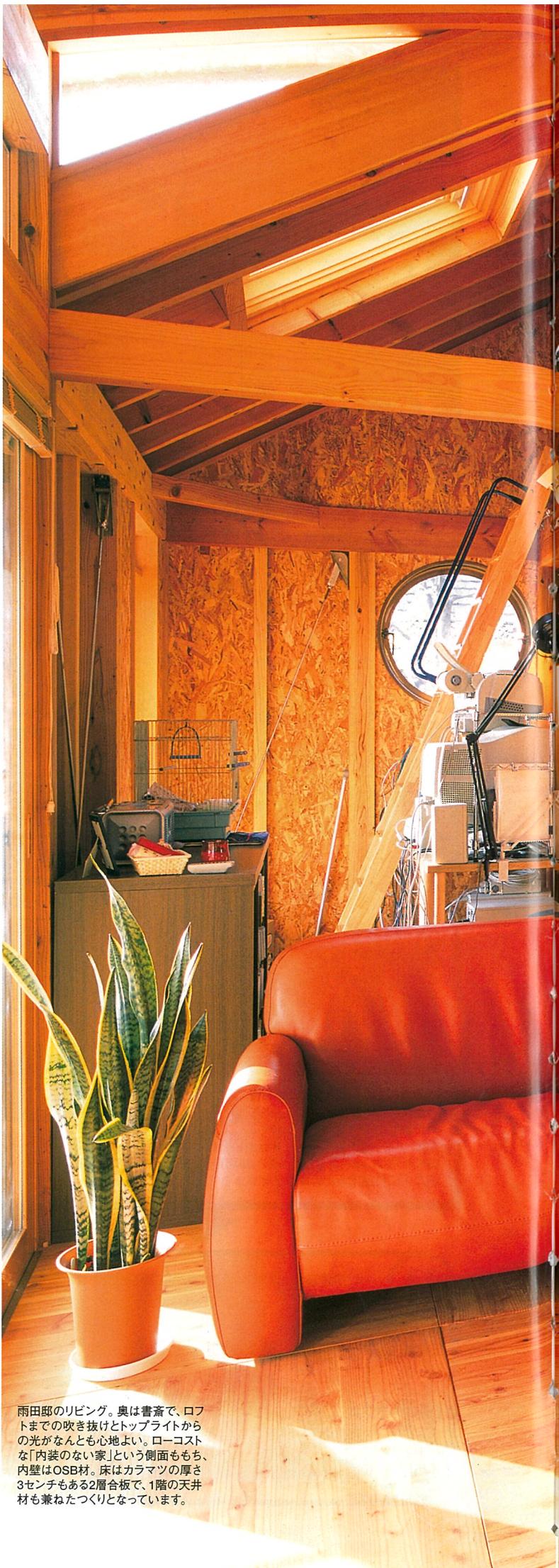
が考えていた土地は神奈川県の川崎市や横浜市の住宅地でした。

結果的には、長年思い描いていた自分だけのスタジオのほか、広いビンググなどを希望していたため、トータルでは当初の金額よりも2000万円もオーバーしたのだそうです。雨田邸がどういうプロセスで現在の形を実現していくのかは、次のページで詳しく紹介させていただきますが、完成したお宅には、土間、はなれ、ルーフデッキ要素が凝縮されています。

若い頃から、ずっと住むのであれば

在来工法の日本の家！と考えていた  
雨田さん。なんでも、その想いの奥底  
には、小さいころに訪れた福井市のお  
じいさんの家のイメージがあるそうで  
す。「昔の古い家だつたんですが、お  
じいさんは彫刻家で、よく軒先で木工  
をトンテンカンとやっていたんですよ  
ね」縁側があつて藤棚があつてという、  
幼少の記憶。「そういうえば、その家も  
今の家と同じ旗竿敷地に建つていたん  
ですよね。藤棚も造りたいんですけど、  
奥さんからまわりに迷惑がかかるとい  
われてしまいましてやめました（笑）」  
完成したお宅は、引き戸の玄関や土間、  
濡れ縁や掘りごたつのある和室などな  
ど、そんな雨田さんの奥底に眠る想い  
がかたちとして表われています。これ  
は、設計した連さんとの度重なる打ち  
合わせによって実現した賜物というこ  
とができるでしょう。

「この家に関しては、ほとんど満足し  
ていますね！」と語る雨田カメラマン。  
気になる建築家との家造りの模様は次  
ページでご覧ください。



雨田邸のリビング。奥は書斎で、ロフトまでの吹き抜けとトップライトからの光がなんとも心地よい。ローコストな「内装のない家」という側面ももち、内壁はOSB材。床はカラマツの厚さ3センチもある2層合板で、1階の天井材も兼ねたつくりとなっています。



# マンションを探していた 雨田さんが建築家と 自分スタイルの家を建てるまで!

建築家と家をゼロから建てるのって、なんか難しそう！とか  
面倒臭そう！なんて、ちょっと思ってしまいません？でも雨田さんの  
場合は、結構楽しそうでした。  
その一部始終をちょっと  
覗いてみましょう。



*My style house.*

1

きっかけはスタイルハウスの  
撮影でした



雑誌4号で紹介した「すっぴんの家」。これは建築家連さんの自邸で、写真は雨田さんによるもの。なんでも雨田さんのもの家からも近く、曲面で構成された外壁などが印象的だったようです。

4年前に中古のマンション、そして3年前に中古の家を探し始めたという雨田さん。建築家の連さんと知り合ったのは、「02年1月に連さんの自邸に雑誌の撮影で訪れたことがきっかけでした。『変わっていていいデザインなんだけれど、家の中は落ち付いている』というのが、雨田さんの第一印象でした。3500万で土地から一緒に探してくれるという話を聞いて家族造りをお願いすることに。

エツ、建築家に頼んで  
土地、建物で3500万？

2

まずは土地探し、トータルで  
100軒以上見たとか！



土地探しをしていくうちに、雨田さんは風通しのよさ、気持ちいいなーと感覚的に感じたところを最終的に選択。数字で面積がどうとかよりも直感的なもの。選んだ土地は隣地が緑地でひな段の高台という風通しのいい土地。2900万円と予算オーバーでしたが、気に入ったので即決。

当初2000万円以内で土地を探していた雨田さん。80坪で1500万円、しかも条件なし！しかし行ってみると擁壁がくずれかけていたとか、なかなか難航。インターネットや新聞で不動産屋にかたづけしから情報収集。FAXは100枚を越え、50物件は実際に足で見に行ったのだとか。決めた土地は旗竿敷地ですが、旗竿部分の幅が3mあるため、クルマを置いても脇を通れるということもポイントでした。

ここから  
いよいよ  
建築家との  
プランニングが  
スタート

連さんにお願い  
することに

3

雨田さんの希望を  
ヒアリング

## 雨田さんの希望

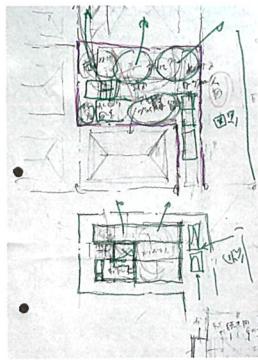
- リビング、ダイニング+キッチン
- 和室（1階）→2人分の部屋として使えるように
- 寝室
- アトリエ+暗室（1階）+デッキ
- 風呂+トイレ+ランドリー（1階）
- トイレ（2階）
- 屋上
- ロフト
- 広めの玄関+引き戸
- 勝手口
- 吹き抜け
- 大きな本棚
- 収納多め
- ペアガラス、お寺の塔がリビングから見える

## 連さんが読み取ったコラージュからのキーワード



## 第1回目のラフ案

コラージュからキーワードを読み取り、と雨田さんから家に必要な部屋の要素や希望を聞いたあとで、第1回目のゾーニングスケッチ。実際の旗竿敷地に、希望のファクターを構成していきます。この時点ですでに、2階からの眺望が矢印で描かれています。



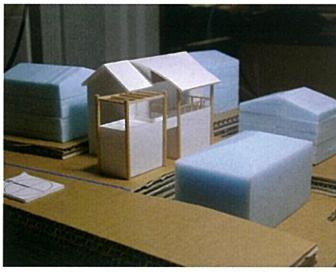
7

**設計も大詰め、コストの見直しも！**

基本コンセプトがほぼまとまった雨田邸。連さんは施工業者3社に合い見積もりを依頼し、信頼できる工務店を探しながら、雨田さんとコストの見なおしの打ちあわせをしていきます。経過プランでの曲線の壁は、コストがかなりUPすることから見送りに。建築模型も具体化していきます。

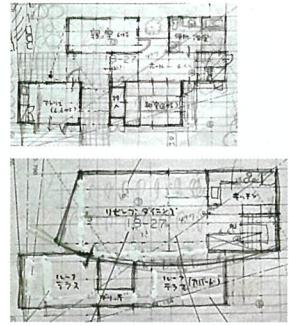


連さんは、一方的にデザインするのではなく、雨田さんとアイデアを出しながら設計をすすめています。1500万円と考えていた建物の予算は、このとき1950万円くらいまでUP。



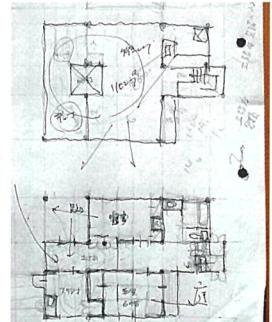
スチレンペーパーの模型が完成。周囲の建物も想定して、ルーフバルコニーからの視界などもチェックしています。このとき、はなれのスタジオの上には藤棚がありました。

経過のプラン



スタジオをはなれとし、土間を広くすることで雨田さんの好きな木工作業がのびのびできるように。ルーフバルコニーを設ければなれと橋で繋ぐなど、現在のスタイルがほぼイメージされています。リビングは連邸のように曲線を描く壁を採用。

初期のプラン



下が1階で上が2階。1階にあるスタジオが母屋にくついていて、2階はバルコニーがなくワンフロアのLDK。土間までクルマをバックで入れ、スタンオへの荷物の出し入れを容易に。

5

**打ち合わせを重ねてプランが練られています**

6

**いよいよ粘土の模型が完成  
現場に持つて行ってイメージ**



連さんが読みとったコラージュからのキーワード、ご主人の「はみ出しあれば」は母屋から飛びだしたはなれのスタジオに。奥様の「内のようで外」はバルコニーへと形を変えて具現化していく、それが粘土の模型となりました。

'02年の10月、平面図に合わせて粘土の模型が完成。はなれのスタジオ、そしてルーフバルコニーと現在の雨田邸で大きな特徴となっている要素がほぼそのまま実現しています。ご夫妻は、模型を連さんの家に見に行き、その後で連さんと実際の敷地に行きながら、完成のイメージをつかんでいます。

7

8

**土地を経て**

**施工業者のチェック**



'03年2月、土地のボーリング調査開始。合意見積もりの結果決まった工務店をチェックするために、同社が建築中の建物の現場に行くことに。雨田邸では、連さんの緻密な設計によるオリジナル建具が多く用されていたりすることもあり、このチェックはかなり重要でした。



**地鎮祭を経て**

**施工業者のチェック**



'03年3月。着工前の地鎮祭。緊張のおもむきの雨田夫妻。気持ちの切り替えをする上でも重要なこと。



工事中も心配な雨田さん。「今日、屋根を葺くってたけど雨だよ」とか、気が気ではなかったとか。現場は珍しい形状のルーフなどかなり凝った造りのため、大工さんたちもかなりやる気で仕事をしていたそうです。

9

**雨田邸、いよいよ  
工事スタート**

10

**手作りタイルなど、  
ご自身も家造りに  
参加**



左は完成したタイル。ブルーの釉薬の風合いや、雨田さんがつけた模様が土間部分を楽しい空間にしています。また、和室の壁はあえて仕上げをせず、こちらもご夫妻が東急ハンズで購入した和紙を下地に張りました。連さんの建築は、施工主が家造りに参加できるところを残し、少し詳しく家造りを楽しむのです。



土間部分の装飾のため、連さんは土間に手作りタイルをはめこむことを提案。陶芸家の林之成さんの協力を経て完成し、コンクリートが乾かないうちにはめていきます。



そして  
完成

リビングからルーフデッキの大屋根をとおして、遠く山々を眺めることができる雨田邸。外断熱のため、柱、梁などすべてあらわしとなり、その構造美もポイントとなっている。



## 外と中がつながった内装のない家 屋根がきりとった景色がポイントです

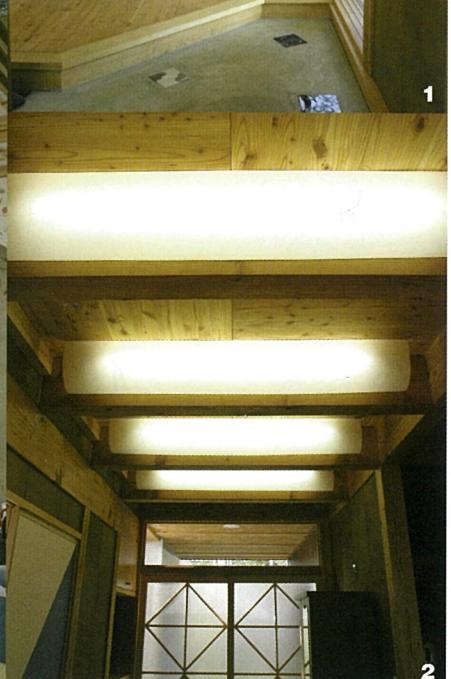
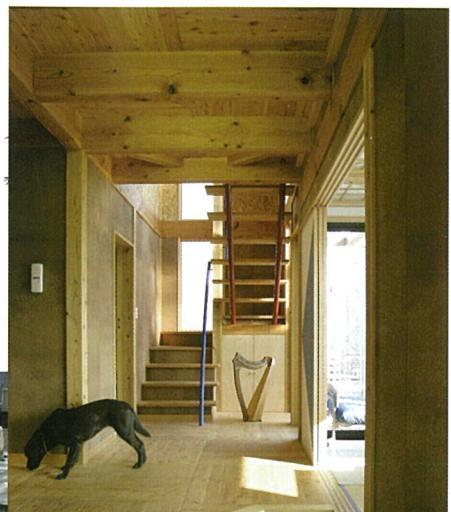
大きな屋根の下で、のんびりと遠く眺められるルーフデッキ。気持ちの良いふきぬけと、自然素材に囲まれたリビング。そしてなにより、カメラマンの雨田さんが夢見ていた専用の暗室。建築家の連さんと、何遍も打ちあわせて完成した雨田邸は、どこをとってもオリジナリの、そして雨田さんらしい雰囲気の造りで満ち溢れています。とにかく、奥様のコラージュからイメージされたアーチ状ルーフのあるデッキは特筆もので、デッキチエアとコーヒーサイアれば、一日中ここで過ごして入たいくと思えるほど！

家が完成して半年、ルーフバルコニーでくつろぐご夫妻に、ゼロから家を建てたあとの感想を聞くと「家を建ててみて分かったんですが、プラス100万という単位のお金が、すぐに飛んでいってしまうんですね」との言葉が。ローンの保証料で銀行に100万円即金とか、電線を引くボールひとつで10万円とか、外構工事で何百万（雨田邸の場合は砂利を敷くだけにしてコストダウンしたこと）とか、予想外のお金に結構悩まされたそうです。こうした話も笑顔で話すご夫妻。やはり自分スタイルの家造りは楽しいことのほうが多いのでしょうか。



ルーフデッキとスタジオの屋根はブリッジでつながり、将来は屋上緑地にする予定。1階部分の外壁はモルタルの刷毛引き仕上げ。

1／1階玄関を入った所。壁はパーティクルボード張りとし、キリの油を染みこませて風合いをだしています。構造材は節有りの安い木材を使用することでコストダウン。赤と青でペイントされた階段のスチールが特徴的です。2／照明は、ムギだしの蛍光灯にワーロンシートを被せただけのローコスト照明。天井に注目！2階リビングの床材がそのまま使われていることがポイントです。厚みがあり、根太が省略できるということです。3／クルマを土間コンクリートのそばまでパックでいれて、アーケードをあければ、そこはスタジオへの入り口というレイアウト。外構は砂利敷きとしてコストを抑え、なおかつ防犯効果も高めています。4／はなれのスタジオ内には、撮影用のバック紙や機材が詰めこまれた棚が。カーテンを閉めれば暗室となり、室内で現像も可能です。5／和室は、部屋に合わせて掘りごたつを作りました。天井は障子をとおして照明が内蔵されています。6／ご両親のことや、自分たちの将来を考え、バストイレはバリアフリーに。カガミに映っているのはタオルなどを乾燥させるときに便利な、PSヒーター。



#### 建築家から一言

**自然素材を素直に使い味わいのある家に！**



連建夫建設研究室／連 建夫さん  
この家は使っていけばいくほど味がでてくるはずです。自然素材を素直に使い、ござくをしないことで、やがて木材がアメ色になり、床もキズがかえって風合いとして表われてきます。雨田邸では、なるべく仕上げまで設計せず、ご夫妻に家造りに参加していただきました。

My style house.

#### Owner's check!

##### お気に入りのポイント

とにかくルーフデッキ（ご主人）。造作の本棚とホンザキの食洗機もお気に入りです（奥様）。

##### ちょっと失敗

コンセントとスイッチの場所。あと収納が少ないと言うことです。

##### 読者へのアドバイス

自分の希望ややりたいことをすべて建築家に伝えることです。あとは一生に一回の買い物で、何千万というお金がかかるためあきらめないことでしょう。

